【山梨県】

山梨県立都留高等学校
つる探総合ゼミ

高校生ボランティア・アワード2024

「コミュニティスクールの可能性
～POSTMAN PROJECTを通して～」

私たちの活動は昨年度からの継続活動である。本校の授業の一環である探究活動の中で国際ボランティアに取り組んでいる。

今年度から本校はコミュニティスクールになるにあたり、学校と地域で協力し合えば大きな成果が得られるのではないかと考え、他県や他校の実践例などを参考に独自性のある取組を目指し模索した結果、最終的に辿り着いたのが国際ボランティア活動である。学校教科書にも活動が掲載されており、本校でも多数の生徒が寄付協力をしたことがあったNPO法人JIYUのPOSTMAN PROJECTに参加することを目標とした。

POSTMAN PROJECTに参加に向け2つのことに取り組んだ。1つ目は不用品、特にランドセルの回収である。校内での募集からスタートし、地域のイベントや近隣の教育施設にも伺い呼びかけたことで、多くのランドセルを寄付して頂いた。またこの活動が広がっていくにつれマスコミからも注目され、ラジオ出演や地元新聞への掲載へも繋がった。新聞への掲載後は、さらに多くのランドセルの寄付が集まり、最終的に301個のランドセルと衣服や文房具類など多くの寄付品を回収することができた。2つ目はクラウドファンディングである。寄付してくださった思いを自分たちの手で責任をもって届けるために、フィリピンへの渡航費をクラウドファンディングにて募った。寄付だけではなく、激励のお手紙や応援の電話もいただくようになり、最終的には目標額の40万円を大きく上回る支援を頂いた。クラウドファンディングで寄付してくださった方々には、現地での活動報告書とお礼状を作成し発送した。

このように多くの方々のご協力のおかげで、NPO法人JIYUに帯同してフィリピン・セブ島でのPOSTMAN PROJECTに参加した。現地ではセブ島中心街から約3時間をかけて、インターネットやガイドブックにも載っていないセブ島の僻地にあるトゥブランという町を訪問した。交流会場にはトゥブランに住む子どもたちだけでなく、市長をはじめ、全学校の校長先生や保護者など200名を超える方々が待機しており、市全体での歓迎を受けた。歓迎のセレモニーを受けた後、持参したランドセルと文房具を子どもたちに手渡しした。ありがとうとおれを言いながらハグをしてくれる子もいて、私たちはこれまで感じたことがないような気持ちになり、現地に来て本当に良かったと心から思った。その後は、子ども達と縄跳び、シャボン玉、折り紙などで遊びながら交流をした。言葉が完璧に伝わる訳ではなかったが、難しいルール説明などは不要なので国籍も年齢も関係なくみんなが同じ時間を楽しく過ごすことができた。交流時間は3時間ほどだったが、私たちにとっては一生忘れることのできない貴重な体験となった。

今年、NPO法人JIYUはこのような活動を中学生や高校生、大学生にも広げていくためにYouthの部を立ち上げた。今回の経験を評価していただき、私たちのゼミはYouthの部の中心として活動を予定している。NPO法人JIYUやPOSTMAN PROJECTのことをより多くの方々に知っていただくためにも、今年度は地域の小中学校への出前授業や企業への活動協力の依頼等を計画している。すでにこの活動にご賛同いただき、海外への渡航費を支援してくださるスポンサー企業も現れた。現地の子どもたちとの交流に胸を膨らませながら、今後も活動に取り組んでいきたい。

「世界中の人々に笑顔と支援を」

私たちはNPO法人JIYUが活動目的に掲げている「教育支援による貧困からの脱却とそれを体験型で支援することで感動共有する社会貢献活動」にとても共感しており、私たちの活動目的にも設定している。先輩方はランドセルなどの不用品を回収し、現地に郵送するというボランティア活動も検討していたが、最終的には「寄付してくださった方々の思いを寄付品と一緒に、自分たちで責任をもって現地に届けよう」と、現地活動にこだわっていた。帰国後、先輩方の「現地に行って本当に良かった。一生忘れることのできない体験ができた。」という話を聞き、私たちも責任をもって寄付品を現地まで届けることにこだわり活動している。

フィリピンは長らく深刻な貧困問題を抱えており、私たちの想像以上に貧富の差が激しい。2018年時点で貧困率は16.6%と6人に1人が月収24,000円未満で、240万世帯以上が飢餓状態となっている。高校までが義務教育である一方、勉強道具や食費、交通費がなく学校に行けず幼い頃から働きに出る子どもが大半を占めている。トゥブランで交流した子どもたちの中にも貧困により学校に通えていない子どもたちがいた。私たちが回収したランドセルや文房具類を手渡しし、嬉しそうにしている子どもたちを見て、ボランティア活動の意義を体感できた。

私たちは日本に生まれ、これまで不自由なく十分な教育を受けながらここまで育ってきた。しかし世界に目を向けると、生まれた場所が違うというだけでこんなにも生活環境が異なるのかということを実感した。私たちの活動を通して、1人でも多くの子どもたちが学校に通えるようになるならばこんなに幸せなことはないと考えている。

「ランドセルに希望と願いをこめて」

（1）不用ランドセルの回収

NPO法人JIYUが回収している寄付品の中で、私たちが最近まで使っていたということや自分の兄弟や親戚の分も回収できると考えたことからランドセルに注目した。まずはじめにランドセル回収のチラシを作成し、都留高校内での呼びかけからスタートした。次に近隣の小中学校へのチラシ配布や地域のイベントに参加して呼びかけを行うなど、少しずつ呼びかけの範囲を広げていった。この取り組みにメディアが注目してくれ、ラジオ出演や地元新聞への掲載など県内全体へ周知することができた。特に新聞掲載による反響はとても大きく、毎日多くのランドセルが学校へ届くようになった。最終的には301個のランドセルと大量の文房具や子供用のバッグや衣服を回収することができた。

（2）クラウドファンディング

ランドセルを始めとした多くの寄付品を回収する過程でグループで話し合った結果、寄付して頂いた方々の思いも現地まで責任をもって届けようという結論に至った。そこでフィリピンへの渡航費や活動費を集めるためにクラウドファンディングを実施した。目標額を40万円に設定し、不用品回収と並行して地域へと周知した。保護者の方々をはじめ、多くの地域の方々からご賛同いただき目標額を上回る支援を頂くことができた。また学校へ激励のお手紙やお電話、地域企業が作ってくださった募金箱なども頂戴することができた。

（3）学校への出前授業（今年度）

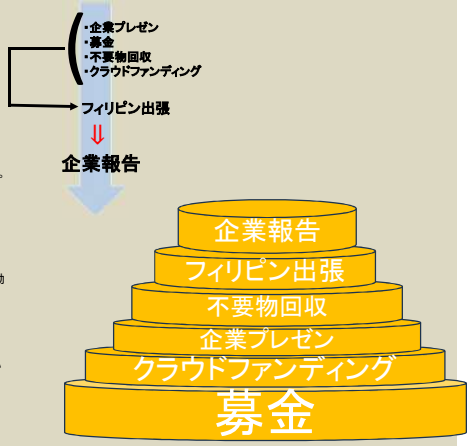
「SDGs活動」というテーマで、地域の中学校への出前授業を計画している。中学校側では総合的な学習の時間と進路学習の一環として受け入れてくださり、探究活動の楽しさや自分たちの活動を広く知っていただき、今後不用品回収に協力を頂いたり、SDGsに興味を持つきっかけにしてもらったりすることを目的としている。

（4）企業へのプレゼンテーション発表（今年度）

昨年度の活動を通して地域の方々に私たちの活動を知って頂くとともに、各方面から多くの反響があった。昨年度はクラウドファンディングを実施してフィリピンへの渡航費や活動費を募ったが、今年度は応援してくださる地元企業を私たちが自ら訪ね、この取り組みのプレゼンテーション発表を行うことで企業スポンサーを探している。すでに2社の企業からフィリピンへの渡航費等を支援していただくことが決まっている。今後も継続的に外部でのプレゼンテーション発表を行い、私たちだけでなく地域の方々と協力してこの活動に取り組んでいきたい。

（5）現地活動と企業報告（今年度）

今年も12月上旬にフィリピンでのPOSTMAN PROJECTに参加予定である。地域の方々からお預かりした不用品を現地まで直接届け、子どもたちと交流し、少しでも国際支援に貢献したいと考えている。また帰国後は、企業スポンサーとしてご支援くださった企業へ活動報告を計画している。



「日本とフィリピンの懸け橋へ」

今回、POSTMAN PROJECTに初めて高校生が参加したが、本当に多くの学びがあった。私たちはボランティアをする側としてたくさんのことを現地の子どもたちに与えたいと意気込み参加したが、結果としては私たちが多くのことを学び、与えられた。またこの活動を通して、NPO法人JIYU会員の大人の方々、現地の大人の方々、そして現地の子どもたちやその保護者と、数え切れないほど多くの方々と関わることができた。私たちはNPO法人JIYUに帯同し現地で活動しただけであるが、その裏では多くの大人の方々の準備のおかげでこのような貴重な体験をすることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

この素晴らしい活動を今後、1人でも多くの同世代に知っていただきたいし、そのための活動に熱心に取り組んでいきたいと考えている。NPO法人JIYUは今後、継続的なフィリピンへの支援が決定した。

私たちはこの活動を終えて帰国した後、周囲からの反響が大きかった。県内外の学校から情報を共有してほしい、どうすれば参加できるかなどの問い合わせが多数あった。NPO法人JIYU側も私たちを取り上げてくださり、様々な場面で紹介をしてくださっている。最近ではNPO法人JIYUがSNSを通じてPOSTMAN PROJECTの発信をしていることもあり、今では全国の高校生、大学生から参加希望の問い合わせがあるそうだ。

本校でも探究活動の中で国際ボランティアに挑戦する生徒が今後も継続的に出てきてほしいと考えている。まだ山梨県内でこの活動に取り組んでいるのは私たちだけであるが、複数の学校からこの活動に取り組む高校生が出てきて、いずれは県内が協力して支援をできるようになれば嬉しい。まさに私たち高校生がいつか日本とフィリピンの懸け橋となるのである。

山梨県立都留高等学校

1900年（明治33年）に創立された県内屈指の伝統校。県東部地域唯一の単位制普通科高校として、「質実剛健」「自学進取」の校訓のもと、地域や国内外において社会に貢献できる人材の育成を目指している。これまでに、3万5千人以上の卒業生を送り出し、県内はもとより国内外の様々な分野で活躍している。

本校の教育の柱の1つに探究活動である「都留高校探究プロジェクト（通称：つる探）」がある。特徴は1，2年生が合同でゼミを形成し、学年の枠を越えて共に学ぶという形式で実施している。上級生が下級生を指導していく過程で互いにとってのメリットが多くあることが魅力である。教科を中心とした10のゼミに分かれており、私たちは「総合ゼミ」に所属し、地域との密なつながりを目指している。今回、高校生が初めてNPO法人JIYUのPOSTMAN PROJECTに参加したこともあり、ゼミ担当の本校教員がYouthのスーパーバイザーに就任したこともあり、今後も継続的につる探の中で国際ボランティアに挑戦していく予定である。